

『建築文化賞』を受賞

研究活動への貢献が評価

広島県鉄構工業会

広島県鉄構工業会(理事 長 山本泰徳・ステントス社長)は、これまで日本建築学会・中国支部の荒木秀夫・広島工業大学工学部建築工学科教授の会員として鋼構造技術の研究などに貢献したことが評価され、このほど日本建築学会・中国支部の『建築文化賞』を受賞。18日、広島市の広島県情報文化センターで開かれた日本建築学会・中国支部の今年度総会で、その表彰式が行われた。

受賞理由は、個人や地域の活動・貢献などにより、中国地方の建築文化の発展に寄与したこと。受賞対象は、工業会会員が主に所属



近松氏(左)と清水教授(中央)と永谷副理事長(右)

する同支部の鋼構造研究小委員会(委員長 田川浩・広島大学大学院工学研究科教授)とその下部組織、鉄骨設計部会(主査 田川浩

教授)と鉄骨製作部会(主査 清水齊・広島工業大学工学部建築工学科教授)。当日は、鋼構造研究小委員会を代表して清水教授が受賞内容について講演。鉄骨製作部会を代表して永谷

仁成・広島県鉄構工業会副理事長 技術委員長(永谷鉄工社長)、鉄骨設計部会を代表して近松英樹氏・カナイ建築構造事務所がともに登壇して賞状を受け取った。山本理事長は「長年にわたり鉄骨製作部会などで鉄骨加工技術の研究開発を行ってきた。本年1月のJASS6改定では、これらの活動の一端であるレーザ孔の研究が掲載され、フアブの鉄骨製作現場の技術が認められた」とし、今回の受賞について「フアブの社会的認知度の向上につながる」と喜びを語った。

